

I . 2026 年度『博士前期課程』 科目別ガイド

教育学研究科目（R T 科目）

科目コード	012100
科 目 名	授業研究A（歴史・理論）
担 当 教 員	廣嶋龍太郎

●テーマ 「自身の教育課題や教育研究を歴史的に考察する」

私たちが教育について考える時、その多くは各自の教育体験を土台としています。教育という行為は人と人の関係の中で生じるものであり、そこには個別の体験に由来する多様な考え方が見出されることでしょう。しかし、「教育の歴史・理論」を考えるときには、教育体験に共通するような「価値」や「意味」もしくは体系立った「論理」が求められることになります。

この科目では、教育学と歴史学のテキストを用い、「教育の歴史を学ぶ意味」を検討することを通じてそれぞれの抱える教育課題や教育研究を考えていただきたいと思います。様々な文献を読み解きながら、自分なりの教育観・歴史観を深めつつ、教育を歴史的に捉える視点を探究していただければ幸いです。

●研究の視点

- (1) 各自の「教育の歴史を学ぶ意味」の考察
- (2) 教育史研究における主要な先行研究の理解
- (3) 「子ども」「知識」「学校」「社会」など教育学上の主要な視点の歴史的理解
- (4) 西洋教育史と日本教育史との横断的な探究
- (5) 自身の教育課題や教育研究を歴史的に捉える視点の深化

●レポート課題と学習ポイント

課題1 テキスト『問いからはじめる教育史』の Chapter1-10の中から任意の1章を精読し、その章の内容を整理した上で、自分の考えを述べなさい。

テキストは序章(CHAPTER0)、第1部「子どもを育てる／大人になる」(CHAPTER1-2)、第2部「知識を身につける／使う」(CHAPTER3-5)、第3部「学校を創る／学校に行く」(CHAPTER6-7)、第4部「教育を変える／社会を変える」(CHAPTER8-10)、終章(CHAPTER11)から構成されています。序章と終章を除いた CHAPTER1-10の中から任意の1章を選んで課題に取り組んで下さい。テキストは緩やかな通史的構造になっていますが、関心のある章から個別に読むことも可能です。テキストの内容は、特定の知識を獲得するだけでなく、多様な論点から教育の歴史に関する学びを深める流れとなっています。また、各章はいくつかの「問い」の形式で進行しますので、自身の問題関心に近いものを中心に検討していただき、取り組む章を見つけて下さい。

各章の末尾には参考文献と文献案内があり、各テーマにおける主要な先行研究群を把握

できる形式になっています。本科目ガイドで紹介する参考文献に加えて、各章末に示された文献にもぜひ目を通して学びを深めてください。

なお、テキストの内容は西洋教育史と日本教育史を往還する形で執筆されているものが多いです。特定の地域を限定して変遷を追うだけでなく、世界史的な視点から歴史を横断的に探究する姿勢も学んでいただければ幸いです。

課題2

「教育を歴史的に学ぶことの意味」について、具体的事例や自身の研究課題等と関連付けながら、見解を述べなさい。

今日の教育的事象を検討するとき、歴史的な背景に立ってその意義や成り立ちを理解することが必要になることがあります。教育に関する現実的問題の解決のために、遠回りかもしれませんが物事の事実関係、価値や役割などをあらためて検討するのが教育史の役割の一つです。

「歴史を学ぶ意味」については、学校教育の各段階において繰り返し問い直される課題です。これまでの学習経験の中で、「何のために歴史を学ぶのか」という問いを抱いた方も多いかと思います。歴史についての考え方は人それぞれですので、課題1で研究した内容も参考にして、各自が「教育を歴史的に学ぶことの意味」について考察して下さい。

各自の歴史観を述べる際には、一般的な教育的課題や、個別の教育体験に基づくことが必要になります。歴史研究を専門とする方でなくても、自身の研究対象についての歴史的興味や関心を改めて検討するのもよいでしょう。

この課題の参考として、課題1で使用したテキスト『問いからはじめる教育史』の序章（CHAPTER0）と終章（CHAPTER11）が引き続き役立つでしょう。また、同書の序章（p.12）で指摘される「史料批判」については、テキスト『歴史学の思考法』の第2章に詳しいため、教育史の修士論文を執筆される方は併せて読むことを勧めます。『歴史学の思考法』は主として歴史学の視点から編まれた文献ですので、自身の研究や課題が歴史的な内容を伴う方は、ぜひ関連する他の章もご参照ください。

なお、修士論文で教育史領域を専門に扱う場合は、テキスト『教育史研究の最前線Ⅱ』も研究上重要な示唆を与えます。この書は教育学の各領域に関する歴史の研究動向についても論及していますので、各自のテーマに応じて発展的にご確認下さい。

●使用テキスト

- (1) 岩下誠・三時眞貴子・倉石一郎・姉川雄大『問いからはじめる教育史』有斐閣、2020年【ISBN：9784641150805】
- (2) 東京大学教養学部歴史学部会編『歴史学の思考法』岩波書店、2020年【ISBN：9784000614061】
- (3) 教育史学会編『教育史研究の最前線Ⅱ』六花出版、2018年【ISBN：9784866170428】

●参考文献

- (1) 山本正身『日本教育史 — 教育の「今」を歴史から考える』慶応義塾大学出版会、2014年

- (2) 佐藤環監修、田中卓也編著『日本の教育史を学ぶ』東信堂、2019 年
- (3) リン・ハント著、長谷川貴彦訳『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店、2019 年
- (4) 北本正章『子ども観と教育の歴史図像学 ― 新しい子ども学の基礎理論のために』新曜社、2021 年
- (5) E.H.カー著、近藤和彦訳『歴史とは何か 新版』岩波書店、2022 年
- (6) 文部科学省『学制百五十年史』ぎょうせい、2022 年
- (7) 上坂保仁・神林寿幸・廣嶋龍太郎編著『ひとりでも学べる教育の理念・思想・歴史』八千代出版、2023 年

科目コード	012200
科 目 名	授業研究B（実践・評価）
担 当 教 員	鄭谷心

●テーマ 「総合的な学習（探究）の時間の授業及び評価」

本科目では、総合的な学習の時間（高等学校の場合は、「探究」。以下、同じ。）を中心に授業の計画、実施、評価について考えていきます。

総合的な学習の時間は、1998（平成 10）年の学習指導要領の改訂に伴って創設されました。創設当時、その役割に大きな期待がもたれ学校の裁量を生かした取組が進められた一方、一部では混乱もみられました。その後およそ 20 年以上が経過し、学校現場に定着してきたといえるでしょう。

2017・2018・2019（平成 29・30・31）年改訂の学習指導要領では、総合的な学習の時間の重要性は一層増しているようにみえます。すなわち、現行学習指導要領は、社会の変化に後追いで対応するのではなく、よりよい社会や人生を自ら創造するために必要となる資質・能力を明らかにして教育課程を改善していこうとするものであり、既存の教科等を超えて横断的・総合的に学習を広げ深めることができる総合的な学習の時間への期待は高いものがあります（「… 学力の回復は総合学習の貢献が大きい」OECD 教育局長 アンドレアス・シュライヒャー氏インタビュー記事、2014(H26).7.2 読売新聞）。また、現行学習指導要領の総則において、学校において教育目標を明確にするに当たっては総合的な学習の時間の目標との関連を図ることが新たに求められています。さらに、高等学校については、小・中学校の成果を踏まえつつ生涯にわたって探究する能力を育むための総仕上げとしてこの時間を位置付ける趣旨から「総合的な探究の時間」とされています。一方、総合的な学習の時間は、既存の教科等に比べて自由度が高く、学校や教師の創意工夫に委ねられる部分が多いこともあって、全国の学校で質の高い取組を目指す上で、検討すべき課題も生じています。

そこで、本科目では、総合的な学習の時間について、まずその意義について考察し、その上で、目標設定や内容の選択・組織・配列といった全体的な枠組みのつくり方について検討します。次に、総合的な学習の時間の意義を授業を通して具現化することを意識しながら、指導計画の作成や学習指導の在り方を考えていきます。さらに、よりよい授業を目指す視点から指導と評価の一体化や自己学習力の向上に向けた評価の工夫などについて考えていただきたいと思います。

なお、本科目の学習に当たって、小・中・高等学校の全体について追究してもよいし、特に関心がある学校段階があればそこに焦点を絞って追究してもかまいません。

●研究の視点

- （１）総合的な学習の時間の意義は何か
- （２）総合的な学習の時間の目標をいかに定めるか

- (3) 総合的な学習の時間の内容をいかに選択し組織し配列するか
- (4) 総合的な学習の時間の指導計画をいかに作成するか
- (5) 総合的な学習の時間の学習指導をいかに展開するか
- (6) 総合的な学習の時間の評価の観点や基準などをいかに設定するか

●レポート課題と学習ポイント

課題1 総合的な学習の時間の意義とその目標設定や内容の選択・組織・配列において重視すべき点について論じなさい。

課題1の追究のためには、上記「研究の視点」(1)～(3)について、テキスト及び参考文献をもとに学習を深め、総合的な学習の時間の特質を把握するとともに現状を視野に置き、根拠を明確にして自分の意見をもち、それらを表現しながら練り上げていくことが望めます。

(1)「総合的な学習の時間の意義」について、今日、そしてこれからの学校の教育課程においてなぜ総合的な学習の時間が必要なのかを考察し、それを踏まえて、(2)「総合的な学習の時間の目標の設定」と(3)「総合的な学習の時間の内容の選択・組織・配列」に当たって重視すべき点を明らかにしてください。その際、現行学習指導要領では、総合的な学習の時間を含めて教科等を貫いて育成したい資質・能力が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されていること、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成が求められていることに留意してください。

こうした学習の前提として、教育課程の基準である学習指導要領に関する知識は欠かせません。2018(平成28)年の中央教育審議会の答申やそれを踏まえて2017・2018・2019(平成29・30・31)年改訂学習指導要領についてよく理解しておくことが大切です。このことは、課題2についても同様です。

また、総合的な学習の時間の目標や内容は、学習指導要領に示された方向性を踏まえて、各学校が定めることになります。各学校において総合的な学習の時間の目標や内容を適切に設定するためには、カリキュラム論の基礎的内容を理解しておくことが重要です。

課題2 総合的な学習の時間の指導計画の作成、学習指導と評価の考え方や進め方について論じなさい。

課題2の追究のためには、前頁「研究の視点」(4)～(6)について、テキスト及び参考文献をもとに学習を深め、総合的な学習の時間の特質を把握するとともに現状と課題を視野に置き、その解決策を明確にして自分の意見をもち、それらを表現しながら練り上げていくことが望めます。

(4)「総合的な学習の時間の指導計画の作成」については、まず探究型学習についての基本的概念や理論を踏まえたうえで、全体計画や年間指導計画に役割について簡潔に触れ、単元の指導計画に重点を置いてその作成上のポイントや留意点について述べてください。次に、(5)「総合的な学習の時間の学習指導」と(6)「総合的な学習の時間の評

価」については、その考え方や進め方について問題点の克服を意識したポイントをまとめてください。

それらをまとめるに当たっては、「直接体験」や「課題の総合性と方法知」、「探究的な学習の過程」や「表現をもとにした評価」を重視しているといった総合的な学習の時間の特徴を踏まえて、自分で立てた課題を解決する方向性を見出し、最終的に子どもたちの資質や能力をより効果的に豊かにすることができる質の高い教育となって結実することを意図しながら考えてください。

●単位修得試験の評価基準

テキストや参考文献等を熟読した上で著者の意見と自分自身の意見を区別して記述している。

自分の意見を述べる際に根拠を明確にしている。

教育課程の基準である学習指導要領及び学習評価についての知識を有し、それを生かして自らの教育実践をデザインしている。

●使用テキスト

- (1) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版 2017【ISBN：9784491034683】
- (2) 田村学『平成 29 年改訂小学校教育課程実践講座 総合的な学習の時間』ぎょうせい 2017【ISBN：9784324103142】
- (3) 岸学ほか『学校教育ではぐくむ資質・能力を評価する 道徳・総合・特活・ICT の活用から始める評価の手引き』図書文化 2019【ISBN：9784810097238】

●参考文献等

- (1) 文部科学省ホームページ「平成 29・30 年改訂学習指導要領、解説等」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
- (2) 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』平成 28 年 12 月 21 日
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm
- (3) 学習指導要領
 - ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）』東洋館出版社 2018
 - ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）』東山書房 2018
 - ・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）』東山書房 2019
- (4) 学習指導要領の解説
 - ・文部科学省ホームページ「中学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）総合的な学習の時間編」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_012.pdf
 - ・文部科学省ホームページ「高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示）総合的な探究の時間編」
https://www.mext.go.jp/content/1407196_21_1_1_2.pdf

(5) 学習評価関係

- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会『児童生徒の学習評価の在り方について（報告）』平成 31 年 1 月 21 日
- ・文部科学省初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」平成 31 年 3 月 29 日
- ・国立教育政策研究『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』小学校総合的な学習の時間、中学校総合的な学習の時間 平成 2 年 3 月
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

(6) 教師用指導資料

- ・文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）』令和 3 年 3 月、株式会社アイフィス
- ・文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）』令和 4 年 3 月、株式会社アイフィス
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/main14_a2.htm

科目コード	012300
科目名	授業研究C（情報教育）
担当教員	岸磨貴子

●テーマ 「知識基盤社会における情報教育の実際と課題」

—学習者の主体性を育む情報通信技術（ICT）の活用を中心として—

本科目では、知識基盤社会における教育において ICT が果たす役割と課題を、学習者主体性の視点から検討することを目指します。

近年、GIGA スクール構想の推進や生成 AI、ラーニングアナリティクスの発展により、学習環境は大きく変容しています。しかし、ICT を十分に活用できる教授者の力量形成や、学習者の多様な特性に応じた教育デザイン、さらにはデジタル・シティズンシップや情報モラルの涵養など、解決すべき課題も残されています。たとえば、教育現場では ICT を用いて授業を行う教授者側の準備が整っていないことや、学習者の学習特性に対応できるような学習環境を満たし得ていない状況があります。さらに、学校教育において ICT を授業・学習面と校務面の両面で ICT を積極的に活用するための基本的な理念や方法論が確立されていないことも大きな問題のひとつとして挙げられます。

以上のような観点から、本科目においては、知識基盤社会において ICT の役割とは何か、ICT 活用を通して学習者が主体的かつ協働的に学ぶための授業設計や自己調整学習の支援方法とは何か、現在の教育上の様々な問題の解決に ICT がいかに貢献し得るのか、など、教育における ICT 活用に関する基本理念と実践上の課題について考えていきたいと思えます。

●研究の視点

- （１）知識基盤社会の特徴と教育への影響
- （２）情報教育の理念
- （３）教育ツールとしての ICT の有用性と限界
- （４）教授者の対応、事例研究

●レポート課題と学習ポイント

課題 1 知識基盤社会における学校及び教育のあり方について論じなさい。

情報化社会から知識基盤社会へ進んだ近年、その影響は社会・経済活動及び日常生活にも大きく及んでいます。そのことは、教育においても例外ではない状況です。特に、学習者に対し何を習得させるのかという「学習内容」と、教育の実践において ICT をいかに活用し、教育効果を高めるのかという「方法論」の両面から知識基盤社会を考えることが必

要とされています。本課題では、以上のような事項について全般的に考察してください。具体的に、この課題1について論じるためには、以下の3つの観点を踏まえてテキスト及び参考文献を読み込み、学習を深めることが望まれます。

第1に、知識基盤社会の特徴をICTの進歩と普及の観点から整理する必要があります。特に、ネットワーク環境や生成AI・ラーニングアナリティクスなどの新技術の現状と動向が教育にどのような影響を与えているかを明らかにしてください。その際、単に技術的進展を列挙するのではなく、教育学的にどのような可能性と課題が生じているのかを批判的に考察することが求められます。

第2に、知識基盤社会における資質・能力（情報リテラシー、21世紀型スキル、デジタル・シティズンシップなど）を明確にし、従来の教育内容との関係性を整理する必要があります。知識基盤社会において求められる資質のひとつとして、情報活用に関する基本的な能力である情報リテラシーがあります。その内容は要素が示されているものの、それぞれが独立しておらず常に関わり合っていたり、状況によって解釈が変わったりするのが現状です。さらに教授者に求められる資質のひとつとしてICT活用指導力や学習者の主体性を支援する力についても検討してください。

第3に、現在、ICTが教育現場でどのように活用され、その効果を上げているのか、実際の適用上でどのような問題が生じているのか、学校及び教授者はどのように対応しているのか等の実態をテキストや参考文献に留まらず多面的に検討してください。例えば、（1）学習者の自己調整学習や協働的学習を支援するICTの実践、（2）個別最適化と協働性のバランスをいかに図っているか、（3）一人一台端末の活用に伴う家庭学習・セキュリティ・情報モラル上の課題、（4）生成AIの導入が学習者の主体性に与える利点とリスク等の視点をもって事例を調べてみてください。

以上の3観点を整理すると同時に、適宜、参考文献や先行研究を用いて理由と根拠を示しながら知識基盤社会における学校及び教育のあり方について論じてください。

課題2 次の2問のうち1問を選択して論じなさい。

課題2は選択課題（2題中1題選択）ですが、いずれの課題も今日の実教育現場におけるICTの利活用について、教授者と学習者の双方の立場から考察することを目的としています。各課題についてテキストや参考文献のまとめにとどまらず、教育実践を調査・分析・考察することを求めます。

① 教育現場の今日的な基本問題の解決におけるICTの可能性と限界について論じなさい。

現在、教育現場では学力格差の拡大や不登校児童生徒への対応、学習意欲の低下、教員の長時間労働など、解決すべき多くの基本問題に教授者が直面しています。ICTの進展はこれらの問題解決に資する可能性を広げており、たとえば学習ログや生成AIを用いた個別最適化によって学習者の興味・意欲を高め、主体的な学びを促進することが期待されています。また、特別な支援が必要な学習者に対しても、拡張・代替的コミュニケーション手段の提供やオンライン学習環境を通じて参加の幅を広げることが可能です。さらに、不登校児童生徒の学習継続や段階的な復帰を支援する事例も報告されており、ICTは教育に新

たな道を開く手段となり得ます。加えて、教材研究や事務作業の効率化により教授者の負担を軽減し、教育活動に専念する時間を確保することも ICT の重要な役割です。

一方で、その実態を精査すれば課題も多く存在します。ICT を導入したとしても、教授者の力量形成が不十分であれば効果的に活用できず、学習者の多様な特性に即した個別化や協働的学びの支援が十分に機能しない恐れがあります。また、過度な ICT 依存は学習者の主体性や批判的思考を弱める危険性をはらんでおり、心理的・社会的な影響にも留意が必要です。さらに、家庭学習における ICT 活用には経済格差や学習環境の不平等といった社会的問題も伴います。

以上を踏まえ、ICT が教育の基本問題の解決にどこまで貢献し得るのか、その可能性と限界を多面的に検討し、適宜、先行研究や参考文献に基づいて理由と根拠を示しながら批判的に論じてください。

② ICT を活用した国内外の遠隔教育・オンライン教育や共同研究の進め方の事例をひとつ取り上げ、実施上想定される課題について解決への基本的な考え方を述べなさい。

ICT の発展とネットワークの普及により、教育の形態は大きく変容しています。特に、インターネット環境の整備は、従来は高度な機器や専門知識を必要とした遠隔教育やオンライン教育を、より多くの教育現場に普及させ、学習機会の格差を縮小する手段として期待されています。初等中等教育では感染症対策に伴うオンライン授業が急速に広まり、高等教育では学習支援システムを用いたり、国際的オンライン講義が一般化したりしつつあります。また、研究機関や大学においては、国境を越えた共同研究が ICT を介して進められており、データ共有やディスカッションを即時に行える環境が整いつつあります。さらに、AI を活用した学習支援システムや、クラウドを利用した教育リソースの共有など、新たな実践も登場しています。

しかし、その実施にあたっては多くの課題が想定されます。たとえば、教授者側に求められる授業デザインや ICT 活用指導力の不足、対面授業との学習効果の差異、学習者のエンゲージメント低下、家庭の ICT 環境格差などです。国際的な共同研究の場合、文化的・言語的背景の違いによるコミュニケーションの困難さや、研究倫理・データセキュリティの問題も無視できません。また、学習者の主体性をいかに確保するか、協働的学びをどう促進するかといった教育的課題も存在します。

本課題では、国内外の事例をひとつ取り上げ、遠隔教育やオンライン教育、共同研究の展開を検討してください。その際、（１）教授者に求められる体制と力量形成、（２）従来の学習形態との調和の方策、（３）学習者の主体性や協働性を高めるためのデザイン、（４）国際的・倫理的課題への対応、などの視点を踏まえて考察し、参考文献や先行研究を適宜用いて理由と根拠を示しながら考察してください。

● 単位修得試験の評価基準

- * 試験問題のポイントを適切に把握して記述しているか。
- * 試験問題と関連する「レポート課題と学習ポイント」で示された内容を踏まえた解答になっているか。

- * 参考文献や先行研究を用いて理由と根拠を示しながら考察されているか。
- * テキストや参考文献からだけでなく、自身の考察を踏まえた論理展開になっているか。

●使用テキスト

1. 久保田賢一・今野貴之【編著】 『主体的・対話的で深い学びの環境と ICT アクティブ・ラーニングによる資質・能力の育成』（新装版） 東信堂 2022
【ISBN：9784798917801】
2. 大島 純・千代西尾祐司【編】 『主体的・対話的で深い学びに導く学習科学ガイドブック』 北大路書房 2019 【ISBN：9784762830808】
3. 高鍬 裕樹・田嶋 知宏「情報メディアの活用〔新訂〕」 放送大学教育振興会 2022
【ISBN：9784595323607】

●参考文献

1. 文部科学省編 『教育の情報化の推進』 2016
2. P.グリフィン, B.マクゴー, E.ケア【編】 三宅 なほみ【監訳】 益川 弘如・望月 俊男【編訳】 『21 世紀型スキル: 学びと評価の新たなかたち』 北大路書房 2014
3. 岡田 正・高橋 参吉・藤原 正敏【編著】 『ネットワーク社会における情報の活用と技術 三訂版』 実教出版株式会社 2010

科目コード	012400
科目名	授業研究 D (教育社会学)
担当教員	須藤康介

●テーマ 教育社会学

近年の「教育問題」に関する教育社会学の研究知見を学び、子供・家庭・学校が抱えているさまざまな問題を、常識に捉われずに多面的に考察するスキルを身につける。現代の学校の中では何が起きているのか。学校の外では何が起きているのか。両者はどう関係しているのか。教育の役割や課題、そして今後の在り方について社会学的に検討する。

●研究の視点

教育社会学の特徴は、①エビデンスの重視、②脱常識、③格差・不平等という視点、④現代の見取り図の提示にある。大学院生は、これらの視点を身につけるだけでなく、実際にこれらの視点に基づく研究を行えるようになることが期待される。

●レポート課題と学習ポイント

課題 1 テキスト『教育問題の「常識」を問い直す 第2版』を精読し、その中から特に関心を持ったテーマを一つ選び、関連する教育社会学の先行研究を検討し、自らの考察を述べよ。

課題 2 テキスト『学習と生徒文化の社会学』を精読し、その中から特に関心を持ったテーマを一つ選び、関連する教育社会学の先行研究を検討し、自らの考察を述べよ。

テキストや先行研究の内容を要約しただけでは不可であり、テキストの内容と関係の乏しい持論を述べても不可である。「○○という点について、自分は××だと考える。なぜなら……」のように、テキストの内容と先行研究をふまえた考察を論述する。自分の経験を根拠にするのではなく、さまざまな理論やデータに目を向けて議論することが求められる。テキスト以外に参考にした文献を、レポート末尾に明記すること。

●単位修得試験の評価基準

論述問題を出題する。教育社会学の先行研究を学習しているか、教育現象を社会学的に考察することができているか、の二つの観点から評価を行う。

●使用テキスト

(1) 須藤康介 2019『教育問題の「常識」を問い直す 第2版』明星大学出版部。

【ISBN：9784895492225】

(2) 須藤康介 2020『学習と生徒文化の社会学』みらい。【ISBN：9784860155193】

●参考文献

岩井八郎・近藤博之編 2010『現代教育社会学』有斐閣ブックス。

酒井朗・多賀太・中村高康編 2012『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房。

志水宏吉 2010『学校にできること』角川選書。

広田照幸 2009『格差・秩序不安と教育』世織書房。

日本教育社会学会は、年 2 回『教育社会学研究』という学術雑誌を刊行している。最新の研究成果が掲載されているので、参考になる。Web 上でも閲覧できる。

科目コード	012500
科目名	授業研究 E（教育心理学）
担当教員	杉本明子

●テーマ 「教授・学習における社会文化的状況と社会的相互作用」

現代の教育現場が抱える大きな問題の1つに、学習における疎外状況、すなわち、学校での学習と日常生活における学習が乖離している状況があると考えられます。学校の教室は実際の社会や日常生活から切り離され、個々の学習者は教師から教えられた抽象的な知識やスキルの暗記・反復練習を行っているということがしばしば指摘されてきました。

近年、このような脱文脈化された個別の学習に対する批判から、社会文化的状況・活動と統合された学習や共同学習の重要性が認識されるようになり、教育心理学・認知心理学の分野においても、状況的学習論に基づいた実践研究や共同の問題解決・学習に関する研究が行われてきつつあります。

本科目では、状況的学習や共同の問題解決・学習において、具体的にどのような状況・活動が学習者の認知発達や学習を促進するのか、教授・学習活動においてどのような社会的相互作用が望ましいのかについて、教育心理学・認知心理学において大きな影響力を及ぼしたピアジェとヴィゴツキーの文献、及び、状況的学習論に関する文献を通して考えることを目的としています。

●研究の視点

- (1) 教育心理学・認知心理学における代表的な教授・学習理論の理解
- (2) 実践共同体での状況に埋め込まれた学習と従来の学校における学習の比較
- (3) 教授・学習における望ましい状況・活動や社会的相互作用についての考察

●レポート課題と学習ポイント

課題1 『ピアジェの教育学—子どもの活動と教師の役割—』と『ヴィゴツキー：教育心理学講義』を読み、ピアジェとヴィゴツキーの各々の理論で想定されている望ましい「対話と学習」のあり方を、対話者間の認知的・社会的関係性、対話の目的、対話スタイル、学習のメカニズム等の観点から比較検討しなさい。また、それぞれの長所・短所について述べなさい。

ピアジェとヴィゴツキーは、教育心理学における教授・学習研究に大きな影響力を与えた研究者であり、現在でも世界中の多くの研究者はピアジェやヴィゴツキーの教授・学習理論に基づいた研究枠組みで研究を行っています。

しかし、ピアジェ理論とヴィゴツキー理論で想定されている効果的な「対話と学習」の

あり方は様々な点で異なります。例えば、対話者間の認知的・社会的関係性、対話の目的、対話スタイル、学習のメカニズムという観点からみると両者は明確な違いがあります。ピアジェ理論とヴィゴツキー理論の各々で想定されている対話者間の関係性は認知的・社会的に対等でしょうか、それとも、非対等でしょうか。対話の目的、すなわち、学習における対話で目指すものは何でしょうか。どのような対話のスタイルが用いられているのでしょうか。どのような学習のメカニズムが想定されているのでしょうか。

本課題では、『ピアジェの教育学—子どもの活動と教師の役割—』と『ヴィゴツキー：教育心理学講義』を熟読し、また、できれば『文化と進化の心理学：ピアジェとヴィゴツキーの視点』等の参考文献も参考にして、各々で想定されている大人と子ども、子供同士の「対話と学習」のあり方について、対話者間の認知的・社会的関係性、対話の目的、対話スタイル、学習のメカニズム等の観点から比較・検討してください。また、各々の理論の長所と短所に関しても考察し、自分の考え述べてください。

課題2

レイブ&ウェンガー (J. Lave & E. Wenger) の『状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加』を読み、従来の学校における教授・学習活動と実践共同体における学習活動を比較検討するとともに、これらに関してあなた自身の考えを述べなさい。

教育心理学、認知心理学においては、伝統的に実験室的状況で人工的な課題を与え、個人がどのように情報を知覚、操作、解釈するのかを明らかにすることに焦点が当てられていましたが、近年、学習が本来持っている状況性を考慮する必要性が指摘されてきました。特に、レイブ&ウェンガー (J. Lave & E. Wenger) が民俗誌的研究の成果に基づいて行った「状況的学習」(situated learning)の理論的考察は、学習研究に多大な影響を与えました。

本書において、レイブ&ウェンガーは、学習を個人の頭の中の出来事ではなく、実践共同体への正統的周辺参加 (Legitimate Peripheral Participation: LPP) として特徴づけています。すなわち、学習は、個々の学習者が抽象的な知識の断片を獲得し、それを後に別の文脈において使用することではなく、実践共同体において実際に仕事の過程に従事することによってその共同体の様々な活動を遂行する技能を獲得していく、という状況の中に位置づけて考えられるものだとしています。

レイブ&ウェンガーが紹介している実践共同体での学習活動と従来の学校の教室における教授・学習活動を比較してみてください。実践の目的、人間関係、知識・技能の習得過程等の様々な点において大きな違いを見つけることができるでしょう。これらを比較検討した結果を基にして、望ましい教授・学習の状況・活動や社会的相互作用に関して、あなた自身の考えを書いてください。

●使用テキスト

- (1) ジャン・ピアジェ (著) / シルビア・パラット＝ダヤン & アナスタシア・トリフォン (編) / 芳賀純 & 能田伸彦 (監訳) / 原田耕平, 岡野雅雄, & 江森英世 (訳) (初版 2005) 『ピアジェの教育学—子どもの活動と教師の役割—』 三和書籍

【ISBN：9784916037898】

(2) ヴィゴツキー（著）／柴田義松 & 宮坂琇子（訳）（初版 2005）『ヴィゴツキー：教育心理学講義』 新読書社【ISBN：9784788041189】

(3) ジーン・レイブ & エティエンヌ・ウェンガー（著）／佐伯胖（訳）（初版 1993）『状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加』 産業図書
【ISBN：9784782800843】

●参考文献

- (1) 高取憲一郎（著）（2000）『文化と進化の心理学：ピアジェとヴィゴツキーの視点』 三学出版
- (2) 白井桂一（編著）（2005）『21世紀への知：ジャン・ピアジェ』 西田書店
- (3) ヴィゴツキー（著）／土井捷三 & 神谷栄司（訳）（2003）『「発達の最近接領域」の理論－教授・学習過程における子どもの発達』 三学出版

科目コード	012510
科目名	授業研究 F（教育行財政）
担当教員	神林寿幸

■テーマ 「教育政策・行政の考え方」

1984 年に中曽根康弘内閣は、中央教育審議会とは別に、内閣直属の教育関係の諮問会議として臨時教育審議会（臨教審）を設置した。臨教審は 21 世紀を見据え、教育改革に関する諸提言を行い、1987 年の第四次答申では「個性の尊重」「生涯学習体系への移行」「変化への対応」という方針を示した。その後、1990 年代に入り、教育分野で地方分権改革や規制緩和が進んだ。例えば、地方分権改革の一環で、教育長任命承認制の廃止や学級編制基準の弾力化が進められた。また、三位一体改革に伴い、2006 年度より義務教育諸学校教員の給与に対する国庫負担率が 2 分の 1 から 3 分の 1 に引き下げられ、都道府県の負担率が増加した。規制緩和については、学校選択制の導入（通学区域の弾力化）や株式会社立学校の創設などが挙げられる。

これらの改革は、明治期の近代学校制度の確立に向けた改革や戦後の教育改革に続き、「第三の教育改革」と呼ばれることもある。「第三の教育改革」についてはさまざまな議論が行われてきたが、その中には断片的な分析や一面的な視点に偏ったものも存在する。しかし、政策とは、多様な価値観や思想を持つアクターたちの譲歩によって成立する、いわば妥協の産物である。そのため、教育政策を分析・考察する際には、多面的な視点が重要となる。

以上を踏まえて、本科目では、教育政策を基礎づける価値や、その価値を実現するための手段である教育行政のあり方に関する概念および先行研究の知見を学ぶ。これにより、日本で進行中の教育改革や教育政策を多面的に分析・考察できる力を養うことを、本科目の目的とする。

■研究の視点

- (1) 教育政策の背景にある価値や思想に関する多面的な考察
- (2) 教育政策を実現するための手段としての教育行政のあり方に関する多面的な考察
- (3) 教育改革の下で教育行政が果たす役割と課題に関する多面的な考察

■レポート課題と学修ポイント

課題 1

使用テキストである青木栄一著『文部科学省――揺らぐ日本の教育と学術――』（中央

公論新社、2021 年) を読み、次の問いに答えなさい。

- (1) 近年の日本の教育行政をめぐる特徴を、同書は「間接統治」と表現した。ここでの「間接統治」は何を意味するのか。具体的な政策を挙げながら説明しなさい。
- (2) 同書の指摘する「間接統治」という特徴をもつ近年の日本の教育行政をめぐる課題について、あなたの考えを述べよ。

(学修ポイント)

- (1) 同書では、「第三の教育改革」を読み解く上で参考となる文部科学省や教育委員会の組織、教育制度の現状が詳細かつ丁寧に解説・分析されており、今後の日本の教育および学術研究政策の課題や展望についても述べられている。教育関係者に広く読んでほしいため、本科目の使用テキストとして同書を指定し、関連事項をレポート課題とした。

さて、「間接統治」は同書のキーワードの一つである。皆さんの中には「間接統治」という言葉を聞いたことがある方もいるかもしれない。同書にも言及があるように、「間接統治」はもともと敗戦後の日本の占領統治において採用された方式であり、GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)が日本政府を通じて占領政策や戦後改革を進めた統治形態を指す。

同書は、「間接統治」が近年の日本の教育行政にも見受けられると指摘している。もちろん、同書が言う「間接統治」は比喩的な表現である。レポートをまとめるにあたっては、日本の教育行政に見られる「間接統治」について、「誰が」「誰を通じて」「具体的に何をしているのか」という点を同書から読み解き、まとめてほしい。その際、具体的な教育政策や教育改革にも言及しながら論じること。

- (2) (1) でまとめた「間接統治」について、その課題を自由に論じてほしい。ただし、レポートは感想文ではないため、事実やデータ、先行研究の知見に基づいて、あなた自身の考えや議論を展開すること。同書に記述のある教育政策や教育改革から「間接統治」の課題を導き出す、あるいは同書に記載されている筆者の考察を要約してレポートにまとめるだけでは、「あなたの考えを述べた」ことにはならず、不合格となる。「間接統治」が及んでいると考える具体的な教育政策や教育改革を選び、それらを事例として分析・考察し、その課題をまとめること。

課題 2

使用テキストである村上祐介・橋野晶寛『教育政策・行政の考え方』(有斐閣、2020 年)を読み、以下の 3 問のうち 1 問を選択して、解答しなさい。なお解答にあたっては、冒頭に解答した問題番号も記すこと。

- (1) 近年、日本では少人数学級指導の推進を求める議論がある。この少人数学級指導の推進についてメリットとデメリット双方を踏まえて、少人数学級指導の推進に対するあなたの考えを論じなさい。
- (2) 2014 年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、首長の地方教育行政への関与が強まることになった。この法改正のメリットとデメリット双方を踏まえて、同法の改正に対するあなたの考えを論じなさい。
- (3) 近年、日本の教育分野ではエビデンスに基づいた政策立案（Evidence Based Policy Making: EBPM）が重要視されている。EBPM のメリットとデメリット双方を踏まえて、EBPM に対するあなたの考えを論じなさい。

（学修ポイント）

繰り返しになるが、レポートは感想文ではない。感想文が悪いというわけではなく、ここではレポートの執筆が求められているため、レポートを書かなければならない。サッカーの試合で野球のルールを適用してはならない（できない）ように、レポートを書く時にはその執筆に求められるルールに基づかなければならない。レポートでは読み手が検証・確認できる事実やデータ、先行研究の知見に基づいて客観的かつ論理的に議論を展開することが求められる。

また、大学院の授業科目であるため、専門的な議論を要求する。指定テキストや参考文献で引用されている文献や自分で「CiNii Research」「Google Scholar」「国立国会図書館サーチ」等で検索・入手し読んだ関連文献を踏まえること（なお、ここでいう文献とは図書や学術論文を指す）。そうでないレポートは不合格とする。

課題 2 では、教育政策および教育行政のあり方について、メリットとデメリット双方を検討したうえで、あなたの考えを論じることが求められる。解答にあたっては、メリットとデメリットを客観的に示しながら、両者を比較衡量したうえで、あなたの考えを述べることが重要である。本問題を通じて、客観的にメリットとデメリットを比較衡量し、今後の教育政策や教育行政を展望する姿勢を身につけてもらいたい。こうした姿勢は、教育行政職員として政策決定を行ったり、あるいは教職員として教育方法や学校での取り組みを選択したりする際に重要となる。

■単位修得試験の評価基準

- (1) 問題のポイントを適切に把握して記述されている。
- (2) 「レポート課題と学修ポイント」で示された内容を踏まえた解答である。
- (3) 事実やデータ、先行研究の知見に基づいて、自身の意見や考えが述べられている。

■使用テキスト

- (1) 青木栄一（2021）『文部科学省——揺らぐ日本の教育と学術——』中央公論新

社【ISBN：9784121026354】

- (2) 村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣
【ISBN：9784641150713】

■参考文献

- (1) 青木栄一・川上泰彦編著（2023）『教育の行政・政治・経営〔改訂版〕』放送大学教育振興会
(2) 松塚ゆかり（2022）『概説 教育経済学』日本評論社

科目コード	012600
科目名	幼児教育研究A（保育）
担当教員	齋藤政子

- テーマ 「我が国の保育の歴史と保育所・幼稚園の保育実践」
「近年の子ども・家族の実態と保育ニーズ」
「保育者の専門性と「保育の質」」

●レポート課題と学習ポイント

課題1 わが国の保育施設（幼稚園・保育所）は、どのように成立し、どのような役割が期待されてきたか、子どもや家族の実態と、保育ニーズの変遷を視野に入れながらまとめなさい。

課題1に取り組んでいくと、近年の子どもと子育ての実態と、保育が変化せざるをえない要因が見えてきます。我が国の保育園と幼稚園の成立・発展過程をおさえた上で、近年、保育施設でみられる子どもの実態や、地域・家庭で抱える子育て困難などについても触れ、保育ニーズがどう変化し、その際、どのような保育実践が積み上げられてきたのか、保育施設はどう評価されているかについて論述してください。

レポートは、日本の保育施設が、どのような役割を果たしてきたのかについてトピックを挙げながら「明治期」「大正期」「昭和・戦時体制期」「戦後改革期」「高度経済成長期」「保育の量的拡大と質的深化の時期」「子ども・子育て支援制度施行以降」等に分けて説明しましょう。その際、子どもや子育ての実態やその時期の保育ニーズを踏まえて日本の保育全体を俯瞰してみましょう。時折、段落のほとんどないレポートが散見されます。適切に段落を分け、節を立てて論じてください。幼稚園の成立過程と保育所の成立過程は違いますので、要因等にも触れながら論じてください。

保育ニーズとの関連で見ると、歴史的には、日本の保育はどうみえるのか、あるいは、21世紀に入った日本の保育の実態は、歴史的にみてどうなのか、全体を把握したあと、各論に入って議論を展開すると、オリジナリティが発揮され、しかも説得力のあるレポートとなるのではないかと思います。

課題2 「保育の質」と「保育者の専門性」について、どのような議論や課題があるのか、テキスト等を引用しながら論じなさい。

日本では、核家族化や情報化、三間の減少などの子どもを取り巻く環境の変化の中で、家庭や地域の教育力が低下してきたと言われてきました。その理由として、日本の子育てやしつけ自体が衰退してきたのだという言説もあります。もちろん、日本の家族や子育てそのものが時代に応じて変化せざるを得なかったのだという意見もあるでしょう。しかし、

子どもが育つ基盤となる生活環境が変化したのであれば、子どもと環境との相互作用や、両者に関わる養育者・保育者自身も変化せざるを得ないとも言えるでしょう。直接子どもに関わる teacher や caregiver だけでなく、政策を計画・立案する政府・自治体の子育て・子育て支援の動向にも目を向ける必要があるかと思います。

子育ては、我が国では近年どのように変化し、どのような子育て問題が存在しているのかをふまえ、子育てと「保育」との違いを明確にしたうえで、保育者の専門性と「保育の質」について論じてください。主要先進国を始めとする多くの国々で、現在、「保育・幼児教育改革」が進んでいます。なぜ、各国が「保育」に注目するのか、それは、「保育」が、人材育成の投資という側面があるばかりでなく、各国国民とその社会の未来にとって必要不可欠な課題だからです。子どもたちの「今」を豊かにすることが、人々の未来も豊かなものにしていくということに気づき始めたからではないでしょうか。実際、OECD は、子どもたちに質の良い保育を提供することは、成長後に収入が安定し健康的な生活を送れる土台になるだけでなく、その社会が安全で快適である保障になり得るということに注目し、加盟各国に対し提言を出しています。また、OECD が注目している点は、「保育」の量的拡充よりもむしろ、質的向上です。

このように、「保育の質」研究をおさえたうえで、保育者の資質と専門性はどうあるべきかについて論じてください。近年、OECD 報告書でも、質の議論の枠組みを紹介し、改善の必要性について説明しています。「保育の質」議論の必要性や、「保育の質」の構造化などについては、テキストの中にも触れられており、そのほか参考書の中でも多くの研究が報告されていますので、それらを参考にしつつ、保育者に必要な専門性と「保育の質」との関連について論述してください。日本保育学会編の『保育学講座』全5巻や OECD のスターティング・ストロング (Starting Strong) に関する報告書なども参考にしてください。

●使用テキスト

- (1) 穴戸健夫 『日本における保育園の誕生 子どもたちの貧困に挑んだ人びと』 新読書社 2014【ISBN：9784788011809】
- (2) 秋田喜代美, 古賀松香編著 『世界の保育の質評価——制度に学び、対話をひらく』 明石書店 2022【ISBN：9784750355047】
- (3) 近藤 幹生, 幸田 雅治, 小林 美希, 本田 由紀, 普光院 亜紀, 川田 学『保育の質を考える—安心して子どもを預けられる保育所の実現に向けて』 明石書店 2021【ISBN：9784750351681】

●参考文献

- (1) 日本保育学会 編 『保育学講座』 全5巻 東京大学出版会 2016
- (2) グニラ・ダールベリ/ピーター・モス/アラン・ペス著『「保育の質」を超えて』 ミネルヴァ書房 2022
- (3) 大宮勇雄 著 『保育の質を高める』 ひとなる書房 2006
- (4) 中坪史典 著 『テーマでみる保育実践の中にある保育者の専門性へのアプローチ』

ミネルヴァ房 2018

科目コード	012700
科目名	幼児教育研究B（児童文化）
担当教員	羽矢みずき

●テーマ「子どもの成長と文化」

児童文化研究とは何か。従来は教育現場などで使われる絵本、紙芝居、児童文学、おもちゃなどの児童文化財を研究対象とする分野でした。ところが最近の児童文化研究は、大人が子どものために用意した文化財に関する考察を大きく踏み越えようとしています。子どもが衣食住、さらには自然環境や都市景観などでも含む諸文化と関わる中で、どのように成長していくのかということを考える分野に変化してきています。児童文化財の研究を、それらの受け取り手である子どもたちの観察をもとに深めていくだけではなく、こうした児童文化研究の新しい動向をみながら進めていきたいと考えます。

●研究の視点

- (1) 自分自身の成長と諸文化との関わり。
- (2) 「原体験・原風景」とは何か。
- (3) 児童文化財それぞれの歴史と現在のあり方。そして、子どもたちをめぐる状況の変化との関連。
- (4) 児童文学作品に表れた子ども像、子ども観の考察。
- (5) これからの児童文化研究はどうあるべきか、それはどのようにして可能か。

●レポート課題と学習ポイント

課題1

自分自身の幼児期から小学校時代頃までを振り返り、「私の遊びの歴史」を記述しなさい。そこから発展して、自分にとっての「原体験・原風景」とは何かということについて説明しなさい。

「私の遊びの歴史」を記述することによって、児童文化および児童文化研究について考えるための視点形成をします。

記述する際には、それぞれの遊びをいつ（何年ごろ、何歳で）誰と（どういう仲間と）どこで（どのような自然・都市環境のなかで）どのように（その遊びのしかた、ルール）といったことを、できるかぎり精密に書いてください。一部年表形式にする、絵や図を入れるなど、記述のしかたについては十分に工夫をしてください。振り返ってみて、それぞれの遊びの場と時間から、自分が何を得たと思えるか（おもしろかったこと、学んだことなど）についても書いてください。

参考文献(9)浅岡靖央他（編）『子どもの育ちと文化』の第5章「子どもの文化としての遊び」（師岡章）や第6章「子どもの育ちと遊び」（木下勇）が、自分の過去の遊びを思い出し、そ

れを記述する際のヒントを与えてくれます。(4)遠藤ケイ『子ども遊び大全』にも様々なヒントがあるでしょう。

そこから発展して、自分にとっての「原体験・原風景」とは何かということについても考えてほしいので、「原体験・原風景」については、(8)古田足日『子どもと文化』を読んでその意味をつかんでください。(3)奥野健男『増補 文学における原風景』や(2)岩田慶治(編)『子ども文化の原像』なども参考になります。

課題2

テキストから作品を一つ取りあげて、その作家について説明し、さらに作品について論じなさい。

テキスト(3)川端有子『児童文学の教科書一改訂新版一』(玉川大学出版部)で日本の児童文学を概観します。そしてテキスト(1)桑原三郎・千葉俊二(編)『日本児童文学名作集』上(岩波文庫)と(2)桑原三郎・千葉俊二(編)『日本児童文学名作集』下(岩波文庫)に収められた作品の中から、興味や関心を持った作品を一つ選びます。作品が成立した時代の状況を考慮し、自分の興味や関心を深めて作家と作品について論じます。レポートの最初には、レポートのテーマや論点を表すタイトルをつけてください。

作品に表れた子ども像、あるいは、そこからうかがえる作者の子ども観などに注目して論じるのがよいと思いますが、論じる観点は様々です。ただ「素手」で論じるのではなく、勉強して書いてください。作品の扉に書かれた作者の紹介をたよりに、同じ作家の作品を数多く読んで考察を深めるのもよいでしょう。あるいは、巻末の解説を参考にして、同じようなテーマを扱っている他の作家の作品や、当該の作家とは対照的な仕事をしている作家の作品を読むというのも有効です。テキストに収められているのは、いずれも短編ですから同じ作家の作品を読むにしても、別の作家の作品を読むにしても長編に取り組むとよいでしょう。比較検討する他の児童文学作品は、地域の図書館で探してください。

参考文献(11)鳥越信(編著)『たのしく読める日本児童文学 戦後編』が児童文学作品を探すガイドになります。児童文学の現在の状況に至るまでにはどのような歴史があったのか、児童文学の現在の状況をどう見るべきかなどについては、(10)鳥越信(編著)『はじめて学ぶ日本児童文学史』や(6)宮川健郎『現代児童文学の語るもの』などを参照してください。

児童文学の歴史や現在について考える場合には、参考文献(1)雑誌『日本児童文学』の様々な特集を見るのもよいでしょう。日本児童文学者協会の機関誌で、1946年に創刊された雑誌です。地域の中央館的な図書館には、バックナンバーや復刻版が所蔵されていることもあります。明星大学の附属図書館にも一部所蔵されています。

●使用テキスト

- (1) 桑原三郎・千葉俊二(編)『日本児童文学名作集(上)』岩波文庫 1994年
【ISBN: 9787003114315】
- (2) 桑原三郎・千葉俊二(編)『日本児童文学名作集(下)』岩波文庫 1994年
【ISBN: 9784472404634】
- (3) 川端有子『児童文学の教科書一改訂新版一』玉川大学出版部 2025年

【ISBN：9784472406430】

●参考文献

- (1)『日本児童文学』（日本児童文学者協会機関誌）1946年
- (2) 岩田慶治（編）『子ども文化の原像』日本放送出版協会 1985年
- (3) 奥野健男『増補 文学における原風景－原っぱ・洞窟の幻想－』集英社 1989年
- (4) 遠藤ケイ『子ども遊び大全』新宿書房（後に講談社+α文庫）1991年
- (5) 仙田満『子どもと遊び－環境建築家の眼－』岩波新書 1992年
- (6) 宮川健郎『現代児童文学の語るもの』NHKブックス 1996年
- (7) 古田足日『児童文化とは何か』久山社 1996年
- (8) 古田足日『子どもと文化』久山社 1997年
- (9) 浅岡靖央・加藤理（編）『子どもの育ちと文化』相川書房 1998年
- (10) 鳥越信(編著)『はじめて学ぶ日本児童文学史』ミネルヴァ書房 2001年
- (11) 鳥越信(編著)『たのしく読める日本児童文学 戦後編』ミネルヴァ書房 2004年

科目コード	012820
科 目 名	幼児教育研究 C（児童家庭福祉）
担 当 教 員	石田健太郎

●テーマ 「子育て・子育て支援の現在-子どもと家族をめぐる問いの立て方・語り方」

本科目は、家族扶養、とりわけ、子どもの養育に関する社会システムとしての子ども家庭福祉のあり方についての基本的な知識の習得をするとともに、福祉社会学的な視点から、「子どもと家族」の関係を捉えなおすことを目的としています。いいかえると、子どもの養育に関する私的領域としての家族と公的領域としての国家・社会との関係を再考すること、となります。こうした再考が必要となる社会的背景は、①人口構造の変容、②家族扶養規範の変容、③子どもの位置づけの変容、④これらの変容をふまえた社会政策・社会保障・社会福祉の変容、です。以上のような研究関心および研究背景にもとづいて、本科目では具体的には、以下のような事項を分析・検討することを課題とします。

子育て・子育て支援の必要性が社会的に認識され、さまざまな施策と実践が展開されるようになってからすでに十数年が経ちました。しかし現実には、子育て・子育て支援の目的は何か、その施策と実践の核は何か、その効果は何か、といったような事項について必ずしも明らかにされないまま、国家的プロジェクトとしての子育て支援が進められています。地域や施設、学校の視点から、子育て支援のケース事例を取り上げ、そのニーズ分析、施策、援助方法などの検討を通じて、専門職が身につけるべき視点や援助のあり方を学びます。また、その際に留意すべき子どもアドボカシーの考え方についても理解を深めます。

●レポート課題と学習ポイント

課題1 子育て支援および児童虐待における「ニーズ」や「支援の在り方」について、標準家族・ニーズとリスク・ソーシャルハームなどの用語を用いながら、論述してください。

※本課題の目的は、児童家庭福祉のあり方に関する基本的な知識及び福祉社会学の視点の修得を行うことにあるため、テキストを通読した上で、論述を行うことが望ましいです。なお、教員の立場や考え方は、参考文献にあげた教員の執筆論文に示されています。端的には、現象の説明を徹底して社会的要因にもとづいて行うというものです。また、基本概念の定義や行政の公開している統計データなどを持ちいながら、論述を行うといった、根拠にもとづいた論述が行われているかどうか、大切な評価ポイントです。

※使用テキストの（2）を主な学習教材として、その他テキスト・参考文献を用いながら論述をしてください。

課題 2 子どもアドボカシーの 4 つの理念および 6 つの原則をふまえ、自らの実践(専門職として/親としての子ども理解の特徴やかかわり) について省察することを通して、その課題点や改善点などを挙げてください。

※使用テキストの (3) を主な学習教材として、その他テキスト・参考文献を用いながら論述をしてください。なお、本レポートでの取り組みは、幼児教育研究演習 C (児童家庭福祉) のスクーリングおよび課題と連動しています。

●単位修得試験の評価基準

以下の 3 点から総合的に評価します。

- ①設問の内容を適切に把握し、キーワードや専門用語を用いながら、回答しているか。
- ②他者の考えと自身の考えを明確に分け、論述を行えているか。
- ③子ども家庭福祉や福祉社会学の視点にもとづいて、考察を行えているか。

●使用テキスト

- (1) 武川省吾・森川美絵・井口高志・菊池英明 (2020) 『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房【ISBN: 9784623089734】
- (2) 上野加代子 (2022) 『虐待リスク構築される子育て標準家族』生活書院【ISBN: 9784865001358】
- (3) 堀正嗣 (2020) 『子どもアドボケイト養成講座——子どもの声を聴き権利を守るために』【ISBN: 9784750350820】

●参考文献

- (1) 岩田正美 (2016) 『社会福祉への招待』放送大学教育振興会
- (2) 山縣文治 (2015) 『少子社会の子ども家庭福祉』放送大学教育振興会
- (3) 石田健太郎 (2017) 「家族らしくあることと保育」斎藤雅子編著『安心感と憧れを育てるひと・もの・こと』明星大学出版部
- (4) 石田健太郎 (2025) 「子どもとつくる教育とケアの協奏——願いと実際のギャップを埋める実践としての寄り添い——」『質的心理学フォーラム』Vol.17
- (5) 内田良 (2009) 『「児童虐待」へのまなざし——社会現象はどう語られるか』世界思想社
- (6) 松木洋人 (2013) 『子育て支援の社会学——社会化のジレンマと家族の変容』新泉社

科目コード	012920
科 目 名	幼児教育研究D（音楽教育）
担 当 教 員	板野和彦

●テーマ「保育・幼児教育の現場で行われる音楽指導の原理と実際」

幼稚園教育要領の「表現」のねらいには以下の3つの項目が挙げられています。

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

そしてこのようなねらいにもとづいて、現場で行われている実際の指導においては歌唱つまり歌うことと、音楽に合わせて体を動かすダンスや遊戯、リトミックなどが多く取り上げられています。歌うことと音楽に合わせて体を動かすことを音楽教育の中心にすえ、合理的で体系的な方法を考案した人物としてコダーイとジャック＝ダルクローズを挙げることができます。

ハンガリーの音楽教育家ゾルタン・コダーイは、子どもたちの保育の中で歌うことを重要視したメソッドを考案した人物として知られています。コダーイの教育法であるコダーイ・メソッドは、子どもたちが生活の中で、身近な歌、わらべ歌などを注意深く聴き取り、歌うことにより美しいものを感じ取る能力、注意力、言語能力などを高めることを目指しています。

一方、スイスの音楽教育家であるエミール・ジャック＝ダルクローズは、リトミックと呼ばれる独自の音楽教育法を創案しました。この方法では子どもたちが音楽を聴き取り、主にそのリズムに合わせて身体運動を行うことにより、注意力、集中力、思考力、創造性などを高めることを目指しました。

ほとんど同時代に活躍したコダーイとジャック＝ダルクローズの教育法は、それまで専門家、あるいは演奏家の養成が中心であった音楽教育の方向を転換し、誰でもできる歌うことや動くことを中心とした活動により子どもたちの成長を促そうとしたところに独自性があると考えられます。また音楽教育の目的についても演奏技術の習得、音楽的能力の伸長だけに終始することなく、人間の全体的能力の伸長を目指したこともまた後に大きな影響を及ぼしました。

本研究においては保育の中で行われる音楽に関する活動について考えてゆく際に、まずコダーイとジャック＝ダルクローズの教育法を取り上げ、その原理、方法、教材などの視点から検討してゆきたいと思います。このような方法により保育現場におけるより良い音楽指導のあり方を探ってゆくことが可能になると考えられます。

●研究の視点

- (1) 2つの教育法の原理の検討
- (2) 具体的な方法の検討

- (3) 2つの教育法において取り上げられる教材の検討
- (4) 2つの教育法を保育の現場に適用するための検討

●レポート課題と学習ポイント

課題1

『音楽教育メソードの比較—コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C・M』の「第3章 エミール・ジャック＝ダルクローズのアプローチ」と「第4章 コダーイ・メソード」を精読し、2人の音楽教育家による教育法の共通点と相違について述べなさい。その際に、それぞれの方法の基礎となる方法（コダーイ：歌うこと、ジャック＝ダルクローズ：聴き取りと身体運動）、目指す人間像（どのような能力を伸張することを目指しているか）、具体的な方法、教材、2人の教育家の生涯についてなどの項目に分けて記述してください。第12章を参考にすると書きやすいかと思います。

課題2 以下の2問について解答しなさい。

- ①『音楽教育メソードの比較—コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C・M』の「第8章 幼稚園—第1学年—第2学年」のコダーイとジャック＝ダルクローズの部分をそれぞれ精読し、これらを参考にしながら保育園・幼稚園の5歳児を対象とした「歌うことを中心とした活動」と「聴き取り身体運動を行うことを中心とした活動」の指導案を作成しなさい。指導の時間は30分程度とする。形式は自由とする。（2000字程度）
 - ②『音楽教育メソードの比較—コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C・M』のp.126からp.129には音楽指導の中で用いるリズムおよび音階音の難易度順の一覧が掲載されている。これを参考にしながら「子どもたちが歌いやすい旋律、打ちやすいリズム」という視点を重視して、教材の選択、指導の進め方について考えるところを述べよ。（2000字程度）
- （レポート課題2については、①・②を1冊のレポートにまとめて提出）

●使用テキスト

- (1) L.チョクシー 他著 『音楽教育メソードの比較—コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C・M』 全音楽譜出版社 初版 1994
【ISBN：9784118700304】
- (2) コダーイ芸術教育研究所 著 『わらべうた わたしたちの音楽—保育園・幼稚園の実践—』 明治図書出版 8版 2013
【ISBN：9784189271130】
- (3) 神原 雅之 著 『ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー』
チャイルド本社 初版 1987 【ISBN：9784805491638】

●参考文献

- (1) 読譜力—伝統的な「移動ド」教育システムに学ぶ（単行本）
東川 清一（著）
- (2) ヴァージニア・ホッジ ミード著『ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授業』ふくろう出版、2006

科目コード	013020
科目名	障害児者教育研究A（障害児者の学習・発達支援）
担当教員	佐々木敏幸

●テーマ 「知的障害/発達障害のある児童生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援の在り方について」

本科目では、共生社会のさらなる推進を目指すために、主として中枢系・認知(情報処理)機能の障害に対応する教育的支援の必要な知的障害、および ASD、LD、ADHD などの発達障害のある幼児児童生徒を想定し、障害特性に配慮した適切な教育について検討します。その上で、特別支援教育の制度として位置づけられている特別支援学校（知的障害）、特別支援学級（知的障害/自閉症・情緒障害）、通級による指導（発達障害）における指導や支援について重点的に考えます。また、小中学校の通常の学級に在籍する、発達障害のある児童生徒に対する指導支援の在り方も検討します。

具体的には、知的障害の幼児児童生徒を対象とする知的障害特別支援学校や知的障害特別支援学級、高機能自閉症等を対象とする自閉症・情緒障害特別支援学級、発達障害の児童生徒を対象とする通級による指導について、制度上の違いや特別の教育課程の編成について学びます。特に、特別支援学校学習指導要領における「自立活動」という領域について理解してほしいと考えています。

さらに、知的障害および発達障害に関する障害特性の理解と、それに基づいた適切な指導及び教育的支援の在り方について学びを深めることにより、障害特性に対応した一人一人の合理的配慮の内容や実施方法について理解して頂きます。

博士前期課程の院生の皆さんには、以下に挙げた使用テキスト及び参考文献等による自学自習を通して、①特別支援教育における制度及び教育課程の編成について、②知的障害/発達障害の幼児児童生徒に対する特別支援学校、特別支援学級における指導と合理的配慮の在り方、③知的障害/発達障害の幼児児童生徒に対する通級による指導、通常学級における指導と合理的配慮の在り方、④知的障害/発達障害の幼児児童生徒の個別の教育支援計画及び個別の指導計画に基づいた授業づくりや指導の実際などについての知見を深めて頂きたいと考えています。

●研究の視点

1. 特別支援教育の理念及び制度、特別の教育課程の編成
 - (1) 特別支援教育の理念と制度について
 - (2) 特別支援学校（知的障害者）と特別支援学校（知的障害者以外）の教育課程の編成について
 - (3) 特別支援学級及び通級による指導の教育課程の編成について
 - (4) 自立活動と学校教育における合理的配慮の実際について

2. 知的障害/発達障害の児童生徒の障害特性及び指導・支援

- (1) 知的障害
- (2) ASD
- (3) LD・ADHD
- (4) 個別の教育支援計画/個別の指導計画の考え方及び実際とそれらを踏まえた授業づくりについて
- (5) 障害特性に応じた合理的配慮について

●レポート課題と学習ポイント

課題1 特別支援教育の理念を概説した上で、特別支援教育の制度面について言及し、それぞれの教育課程の編成及び自立活動の在り方について論述しなさい。なお、自身の経験や事例などの具体例を基にしながら論じてもよい。

(使用テキストおよび参考文献等を精読することで、特別支援教育の基礎基本について理解を深めていただくこと、さらに「論述」を期待していますので、自らの考えも含めてまとめて下さい。)

課題2 知的障害・ASD・LD・ADHD のいずれかを選んだ上で、障害特性や合理的配慮の内容例を踏まえながら、個別の教育支援計画/個別の指導計画の策定と共に自立活動の視点を踏まえた授業づくりについて、可能な限り实际的、具体的な内容で論述しなさい。

(課題1同様、院生自身の経験や考えを交えながら課題2について論述して下さい。)

●単位修得試験評価基

使用テキストおよび参考文献等を熟読し、院生自身の体験や意見、考察を含める形で論述すること。また、レポートの構成(小項目を立てる)を踏まえて論述すること。

●使用テキスト

- (1) 綿引清勝・東敦子・佐々木敏幸(2026)『支援を要する子の障害児保育・特別支援教育 ―保幼小の連続的な学び 保育士養成・幼小教職課程対応』中央法規出版【ISBN:9784824303936】
- (2) 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2020)『特別支援教育の基礎・基本 2020 新学習指導要領対応』ジアース教育新社【ISBN:9784863717138】
- (3) 小貫悟・川上康則(2020)『テキストブック 授業のユニバーサルデザイン 特別支援教育・学級経営』一般社団法人日本授業UD学会

●参考文献

- (1) 佐々木正美(2008)『自閉症児のための TEACCH ハンドブック 改訂新版 自閉症療育ハンドブック』学研教育出版
- (2) 齋藤大地・佐々木敏幸・井上賞子ほか(2025)『はじめての特別支援教育 発達障害・知的障害のある子の自立活動アイデア図鑑』明治図書

- (3) 阿部利彦・赤坂真二・川上康則・松久眞実(2019)『人的環境のユニバーサルデザイン 子どもたちが安心できる学級づくり』東洋館出版社
- (4) 川上康則(2024)『まんがでわかる 初めて特別支援学級の担任になったら 教師と子どもが成長する学級経営』学研
- (5) 阿部利彦(2017)『授業のユニバーサルデザインと合理的配慮』金子書房
- (6) 佐々木敏幸(2023)『特別支援教育サポート BOOKS 広がれ！自分らしさを引き出す「おもしろ」図工・美術の授業』明治図書出版
- (7) 井上賞子・杉本陽子・小林倫代(2021)『改訂版 特別支援教育 はじめのいっぽ！』学研教育みらい
- (8) 文部科学省(2018)『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)』開隆堂
- (9) 文部科学省(2018)『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)』開隆堂

科目コード	013100
科目名	障害児者教育研究B（障害児者自立支援）
担当教員	島田博祐

●テーマ

「知的・発達障害児者の地域生活に向けての移行支援と生涯学習について」

障害児も成長し青年期・成人期・壮年期・老年期に至る過程を経過していくことから、学齢期において卒業後の自立した職業・地域生活および地域参加に結びつく教育内容を考慮することが大切であり、それを進めるうえでのキャリア教育が重要となる。キャリア教育は就労に必要なワークキャリアと地域で暮らし楽しむために必要なライフキャリアがあり（渡邊，2013）、双方が必要である。ライフキャリア教育の内容には、性、余暇、触法などの問題を含み地域生活におけるリスク管理も入ってくる。

また、充実した地域生活を実現する為に、PCP（Person Centered Planning＝本人主体の計画）の視点に立つ個別支援計画が求められる。計画の基礎となるケアマネジメントにおけるニーズアセスメントで、障害のあるサービス利用者の適切な自己選択、自己決定が必要となるが、それには小中高の学校教育の中で得られた知識では不十分な面も出てくる。そこに余暇や社会参加の意味も加わり、QOL（生活の質）の向上にとっても重要であることから、知的・発達障害者の生涯学習を支援する必要性が増している。

本特講では、上記の観点を踏まえ、地域における充実した自立生活を目指すための移行支援や生涯学習支援について、考察を深めることを目的とする。

●研究の視点

- （１）青年期以降の知的・発達障害者の抱える問題、地域生活におけるリスクと課題
- （２）障害者の自立とは－障害者福祉と障害者の就労、地域生活支援
- （３）余暇・生涯学習に関する支援の必要性

●レポート課題と学習ポイント

課題１

知的障害・発達障害児者の充実した職業生活、地域生活を支える仕組みや現状に関し概説するとともに、教育領域におけるキャリア教育、福祉領域における地域生活支援のあり方も併せ、日本における知的・発達障害児者の移行支援及び卒業後の地域生活支援の課題について、生涯発達支援の観点から思うところを述べよ。

課題２

知的障害児者におけるライフキャリアの側面としての余暇、生涯学習に関する支援の必要性に関し、実践例の紹介なども含め、今後の課題に関し、思うところを述べよ。

●使用テキスト

- (1) 小林繁・松田泰幸(編集)、『月刊社会教育』編集委員会 『障害をもつ人の生涯学習支援 インクルーシブな学びを求めて 24 の事例』 旬報社 2021
【ISBN：9784845117048】
- (2) 日本発達障害学会監修 『キーワードで読む発達障害研究と実践のための医学診断/福祉サービス/特別支援教育/就労支援 福祉・労働制度・脳科学的アプローチ』 福村出版 2016 【ISBN：9784571420580】
- (3) 橋本和明編著 『発達障害と思春期・青年期 生きにくさへの理解と支援』 明石書店 2009 【ISBN：9784750329956】

＊レポート執筆のヒント：テキスト（２）は関連事項に関する事典として、テキスト（１）（３）は事例紹介として拝読いただければ、レポートのイメージが具体化すると思います。余裕があるなら、以下の参考文献もお読みください。

●参考文献

- (1) 上田敏 『ＩＣＦの理解と活用』 萌文社 2005 注）障害児者教育研究演習Ｂで使用
- (2) 小林亜津子著 QOL ってなんだろう？ ちくまプリマー新書 2018
- (3) 渡辺明弘編著 『みんなのライフキャリア教育』 2013 明治図書
- (4) 小林繁著 『障害を持つ人の学習権保障とノーマリゼーションの課題』 れんが書房新社 2010 注）博士課程「障害児者教育研究演習Ｂ」で使用
- (5) 梅永雄二・島田博祐・森下由規子編著 『みんなで考える特別支援教育』 北樹出版 2019 注）障害児者教育研究演習Ｂ（障害児者自立支援）と共通
- (6) マグナス家族編 高橋亮・島田博祐監訳『ある家族の愛の物語』 初版 2004 文化書房博文社

科目コード	013200
科 目 名	障害児者教育研究C（小児保健）
担 当 教 員	星山麻木

●テーマ 「乳幼児期から学童期の特別支援教育の課題」

障がい児教育から特別支援教育への転換期にあたる現在、特別支援教育の課題は山積しています。そこで、この科目では、特別な支援を必要とする子どもたちのなかでも、特に乳幼児期から学童期の子どもたちの支援に注目して、特別支援教育の課題と支援方法について多角的に学びます。教育、福祉、医療との連携、或いは連携を促すための実践的な支援方法や工夫など、自ら課題を見つけ、考察を深めます。

●研究の視点

- （１）乳幼児期から学童期の特別支援教育の課題を見つける
- （２）支援方法を見出す
- （３）自らの立場と社会的な役割を考える

●レポート課題と学習ポイント

課題１ 現在置かれている自らの立場や社会的役割を考えながら、障がいのある子どもや保護者に関する特別支援教育の課題について、考察しなさい。

まず、現在の特別支援教育の概要について理解してください。文部科学省のHPから「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」を読むとだいたいの流れが理解できます。次にクリスティ・プリティフロンザック『こどものニーズに応じた保育』、或いは新聞、インターネット、文献などから、障がいのある子ども、特に乳幼児期から学童期の子どもと保護者に関する特別支援教育の課題を見つけてください。ご自分の興味の課題はなるべく１つに絞ってください。次に現在のご自分の立場や社会的役割を考え、その課題について、提言をしてください。

課題２

乳幼児期から学童期の特別支援教育の課題に対して、実践的な支援方法を述べなさい。

課題２では、課題１で選択した課題について、どのようにしたら、その課題をより良い方向に導けるか、考察を深めてください。具体的な支援方法や教育方法の例について、星山 麻木『障害児保育』『この子は育てにくい、と思っても大丈夫 ～生まれてきてくれて、ありがとう 子どもに伝えたいあなたのために』、藤崎真知代『育児・保育現場での発達とその支援』などを参考に、最新の研究や方法論など、例を引用しながら述べてくだ

さい。なるべく実践的な支援方法を自分なりに考えてください。

●使用テキスト

- (1) クリスティ・プリティフロンザック 著『こどものニーズに応じた保育』 二瓶社 2011【ISBN：9784861080586】
- (2) 星山 麻木 『この子は育てにくい、と思っても大丈夫 ～生まれてきてくれて、ありがとう 子どもに伝えたいあなたのために』 河出書房新社 2017【ISBN：9784309248011】
- (3) 星山 麻木 『障害児保育ワークブック ―インクルーシブ保育・教育をめざして』 萌文書林 2019【ISBN：9784893474094】

●参考文献

- (1) 星山麻木 『子どものポートフォリオを作ろう』 東洋館出版社 2006
- (2) 文部科学省 『児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン』 東洋館出版社 2004

